

# 令和2年度 第4回市民と市長の座談会

## 会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	令和2年11月19日(木) 午後6時00分～8時00分
開催場所	桜町上水会館
参加者	男性 4名 女性 6名 計10名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ (市政報告) 3 懇 談 フリーテーマ 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナウイルス関連意見 (自殺対策について)</li> <li>・ コロナウイルス関連意見 (災害に対する対策について)</li> <li>・ コロナウイルス関連意見 (コロナ鬱について)</li> <li>・ コロナウイルス関連意見 (避難所の備品について)</li> <li>・ コロナウイルス関連意見 (まちを活性化する事業について)</li> <li>・ コロナウイルス関連意見 (学校教育の芸術活動について)</li> <li>・ コロナウイルス関連意見 (COCOAの市報掲載について)</li> <li>・ コロナウイルス関連意見 (アーティスト等緊急支援事業について)</li> <li>・ コロナウイルス関連意見 (保育従事者支援事業について)</li> <li>・ コロナウイルス関連意見 (保育のサポーターの自主グループへの支援について)</li> <li>・ 小金井市の温泉の掘削について</li> <li>・ ブロック塀について</li> <li>・ 路側帯の色について</li> <li>・ GIGAスクール構想について</li> <li>・ 環境問題について</li> <li>・ 新庁舎建設について</li> <li>・ 農業の活性化について</li> <li>・ 庁舎の跡地活用について</li> </ul>
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

## 令和2年度第4回市民と市長の座談会

令和2年11月19日

### 1 開 会

#### ○司会者

皆さん、こんばんは。本日は御参加いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます広報秘書課長の廣田と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。今回、新型コロナウイルス感染症の防止対策としまして、着座のまま、またマスク着用にて進行させていただきますので、御了承のほうをお願いいたします。

それでは、まず初めに配付物の確認をさせていただきたいと思います。まず、お手元に次第がございます。続きまして、アンケートです。続きまして、令和2年度の施政方針ですね。続きまして、令和2年度の小金井市予算の概要。こちらは、主な事業の紹介ということで、14ページから26ページまでを抜粋したものでございます。続きまして、新型コロナウイルス感染症小金井市緊急対応方針（第2弾）になります。続きまして、同じく緊急対応方針（第3弾）になります。続いて、「市報こがねい」7月1日号の5面に当たりますけれども、こちらのPDF版になります。こちらは、令和2年第2回的小金井市議会議定例会補正予算における新型コロナウイルス感染症対策についての記事になりまして、緊急対応方針（第2弾）で実施する施策の予算規模を示したものでございます。続きまして、「市報こがねい」、今度は9月1日号の4面のPDF版になります。こちらは、令和2年第2回小金井市議会臨時会の補正予算における新型コロナウイルス感染症対策についての記事になりまして、今度は緊急対応方針（第3弾）で実施する施策の予算規模を示したものでございます。続きましては、令和2年第3回小金井市議会臨時会補正予算における新型コロナウイルス感染症対策についての予算規模を示した資料になります。あとは、「小金井てくてくMAP」。あと、「みんなで築こう 人権の世紀」のリーフレットになります。最後は、「12月3日～9日は障害者週間です。」のチラシになります。こちらが、皆様に個別に御用意した資料、以上10点になります。そのほか、受付で自由にお取りいただけるものとしましては、「小金井市はこんなところですよ。」というリーフレット、「小金井の坂と遊歩道マップ」、あと「防災用品あっせんのお知らせ」、こちらの3点を受付のほうに御用意していますので、御入用の方はお申しつけください。もし過不足がありましたら、受付

のほうにおっしゃっていただければと思います。

それでは、開催に当たりまして、まず事務局より御説明を申し上げます。この座談会は、平成28年度から開始したものでございまして、毎年、年に4回程度、市民の皆様と市長とのフリートークということで開催しておりまして、本日は今年度の第4回目の開催ということになります。本日の進め方でございますけれども、まず初めに市政報告ということで、重要課題の進捗状況につきまして、市長の西岡より簡単に報告させていただきます。その後、意見交換ということで、皆様から自由に御発言いただきまして、それに対して市長がお答えするという形で進めさせていただければと思います。まず、懇談に入る前に、事務局より5点ほど御了解をいただきたいと思います。まず1点目ですけれども、懇談中は、恐れ入りますが、議事録作成のため録音をさせていただきます。2点目なんですけれども、懇談の様子を後ろから撮影した写真をホームページに掲載させていただきます。もし何か写真の撮影で不都合がございましたら、担当の職員のほうに申しつけてください。あと、懇談中は、御発言されるときも含めて、必ずマスク着用をお願いいたします。4点目、御発言をされる方にはマイクをお渡しするんですけれども、その都度、消毒をさせていただきますので、通常よりお時間がかかるかもしれませんが、御了承いただければと思います。5点目なんですけれども、本日の終了時刻は午後8時までとなっております。市長は、この後の公務の都合で20時には退出しなければいけない関係がございまして、大変恐れ入りますが、質問時間の調整をさせていただくことがあるかと思うんですけれども、御了承いただければと思います。

では、次第に従いまして、まず市長の西岡より御挨拶と市政報告をさせていただきますと思います。

## 2 市長あいさつ（市政報告）

### ○西岡市長

皆様、こんばんは。着座にて失礼をいたします。コロナ対策の関係で、マスクをしたままのお話となり、聞きづらい点もあるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。小金井市長の西岡真一郎でございます。本日は、令和2年度、今年度は最終回の市民と市長の座談会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。この座談会は、市民の方との対話の場を設けるために、私が市長に就任させていただいた翌年度、平成2

8年度から開催しているもので、今年で5年目を迎え、毎年、年4回開催しているところでございます。通常は、皆様にお気軽にお越しいただけるよう、事前申込みという形は取っておりませんでした。しかしながら、新型コロナウイルス感染防止の観点から、今般は申込み制によりまして、人数も15名ということで制限をさせていただきます、お客様同士が密にならないよう、間隔を空けて座席を配置させていただいておりますので、御理解と御協力をお願いいたします。市民の皆様方から様々なことにつきまして御意見をいただきまして、私の市政運営、小金井市政、小金井市の行政運営の参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。今日は特にテーマを設定しておりませんが、皆様方のとても関心の高い、また不安もあろうかと思いますが、最初は新型コロナウイルス感染症対策についてお感じになっていることや、御質問、御意見、御提言、御要望、まずはこういったことについてお聞かせいただければなと思っております。その後、フリーテーマでいろいろなお話をお聞かせいただければと考えておりますので、忌憚のない御意見をお願いいたします。まず、冒頭のお時間をお借りいたしまして、18時30分ぐらいまで、私のほうから重要な市政報告や、皆様方にぜひお伝えしたいことなどにつきまして、お話をさせていただきます。その後は、約1時間半にわたって、皆様方と意見交換等を行わせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

最初に、皆様の最も関心の高いと思われる新型コロナウイルス感染症対策についてでございます。皆様も報道等で御承知のように、11月に入りましてから、感染拡大が急速に伸びてしまっております。深刻な感染状況ということになっております。第3波とも言われておりますが、明らかにこれまでの1日当たりの都内の感染者数や、全国の感染者数の、これまでの数値を日々更新するような状況が続いております。本日も、東京都内では、昨日判明した分ですが、500名を超えたところであります。今日、5時15分から、小池東京都知事の記者会見が行われておりまして、私もずっとここで、始まるまで記者会見の様態を聞いていた状況です。また、今日は東京都のモニタリング会議も開かれておりまして、一定の判断がなされました。感染状況と医療提供体制という2つのモニタリングを、様々な指標を用いて東京都は公表しておりますが、感染状況につきましては、ランクの中では一番高い「感染が拡大していると思われる」状況ということで、これまで以上に、1ランク警戒レベルが引き上がった、最上位のレベルになったということです。また、医療提供体制につきましてはこれまでと継続で、「体制強化が必要であると思われる」というレベルでございます。小金井市といたしましても、都立多摩府中保健所、小金井市医師会、

また東京都など、関係機関との連携をしながら、市民の皆様方への感染症対策などに取り組みとともに、市民生活や事業者の皆様方をお支えする、広範囲にわたる様々な支援策を今、鋭意展開しているところでございます。未知のウイルスに対するワクチンや特効薬は、いまだ開発途上でございまして、去る5月25日には国による緊急事態宣言が解除されましたが、その後も感染拡大は収まっていない状況です。小金井市の現状でございますけれども、昨日11月18日現在で、累計であります、陽性判明者は154名となっております。そのうち、退院等をされた方は144名ということでございまして、現在は10名の方が罹患中ということでございます。何よりも、感染しない・感染させない行動や生活様式を、しっかり様々な分野に定着させていくということ、そして、私は常々担当職員どもに申し上げているのですが、今、情報が非常に多くて、よく市民の方、実は毎年2,000人の方々に、「市長への手紙」というアンケートを取っています。昨今、基本構想の策定とか、十数項目以上にわたる基本計画の改定を行っておりますので、昨年、今年とたくさんのアンケートを発送しております。1回のアンケートが3,000人規模——これは都市マスですけども、3,000人規模に上ったものもありますが、様々なアンケートを無作為抽出で複数回行わせていただきました。今年の6月頃に行った「市長への手紙」というアンケートでは、新型コロナウイルスに関する質問項目も初めて盛り込みました。そのアンケートの集計結果もホームページで公表してございますが、多くの方々から様々な困り事、不安に感じていることなどを集計させていただきました。これは貴重なデータでございますので、こういったデータをしっかり把握しながら、そしてそのデータに示されている市民の方々のお声というものを把握しながら、様々な対策に引き続き取り組んでまいりたいと思っております。大切なことは、もちろん医療提供体制を充実することや、何よりも副反応・副作用、多くの方々の不安があるかと思いますが、そういった安全面もしっかり対応していただいた上で、ワクチンの早期の接種が望まれるところでございます。まだまだ全国民、小金井では12万市民の方々が対象となると思いますが、その接種が完了しない限りは、コロナの本来的な収束というのは非常に厳しいと。そして、先の見通せない不安との戦いでもあります。そんな中でも、大切なことはたくさんありますけれども、行政もしっかり取り組みますが、やはり自己防衛といいたししょうか、私たち一人一人が感染しない・感染させないという行動をしっかり取っていくということが何よりも重要だと、私としては考えているところでございます。若干、小金井市が取り組んでいる最新の新型コロナウイルス感染症対策などについて御報告いたします。小金井市では、新型コロナウイルス

ス緊急対応方針、5月に第1弾、8月に第2弾、10月に第3弾を策定いたしました。医師会などの関係機関と連携した感染症対策、市民生活や事業者などの皆様を支える様々な支援策に、鋭意取り組んでいるところでございます。第3弾までの予算規模といたしましては、特別定額給付金、これは総額125億円規模になりましたけれども、この特別定額給付金を除きまして、予算規模といたしましては、これまでに20億円以上の予算を執行しまして、様々な対策に取り組んでいるところでございます。明日11月20日には、第4弾を公表する予定でございます。新たな対策にも着手してまいりたいと考えております。現在取り組んでいる主な取組といたしましては、高齢者のインフルエンザ予防接種の促進。こちらは、東京都の予算を活用いたしまして、65歳以上の方は無料で、自己負担なく受診・接種ができる状況を、医師会の方々と協力して構築してございます。また、今後はPCR検査などの費用の補助なども考えてまいりたいと思っております。これは、特定の業種を選定することにはなると思いますが、エッセンシャルワーカーや、介護、子育ての分野、障害者福祉の分野などのお仕事をされている方々を念頭に置いた取組も必要と考えてございます。また、小中学校におきましても、様々な環境整備に取り組んでいるところでございます。また、新型コロナウイルスの影響によりまして、現在献血が大変不足しておりまして、パンデミック発生依頼、常に血液が足りないということで、献血を行っております。小金井市といたしましても、これまで以上に力を入れて献血の普及・推進に取り組んでいるところでございまして、これからも努力してまいります。先ほど申し上げました市民の方々のアンケートの中で、特に高齢者の方からの声として強かったのが、なかなかインターネットから情報が得られない。スマホは持っているけれども、どうやっていろいろな情報を見に行ったらいいのか分からない。昨今、LINEなどを通じて、お孫さんとテレビカメラなど、スマホのカメラを中継して会話をするような光景がよく目につきますけれども、全ての方がそういったことに取り組めるわけではありません。市としても、先ほども申し上げました情報発信は、緊急性の高いものはどうしてもホームページやツイッターになってしまいますが、「市報こがねい」、広報掲示板、COCOBASの広告、回覧板、あらゆるツールを通じまして、引き続き様々な情報をお伝えしてまいりたい、努力してまいりたいと考えてございます。そういったことを受けまして、高齢者の方々の、ICTの利活用の支援などの在り方についても考えていかなければいけないということで、現在検討しているところであります。また、市立小中学校におきましては、臨時休校が行われました。学びを継続するということ、そして先生とのつながりや友達とのつながりなど、臨時休校と

なって御自宅で過ごす機会がまた発生する可能性がないわけではありません。そういったことに備えるために、小金井市では、市立小中学校におけるG I G Aスクール構想の構築に今、鋭意取り組んでいるところであります。7,500の端末を既に用意いたしまして、クロームブックというものでございますが、1人1台の端末を準備いたしました。そして、回線をつなぐためのカテゴリー6という、大容量・大高速のW i - F i環境を整えるための工事を今、行っております。こちら各校、工事が大体1校3,000万円ぐらい、Chrome bookの入手も含めて、総額、予算上では約7億4,000万円規模の大事業となっておりますが、未来ある子どもたちのための学びの継続ということにしっかり取り組んでいきたいと思っております。現在、小金井市教育委員会では、鋭意全力でこの準備をしているところです。先般、G I G Aスクール構想の説明会を行ったり、専用のホームページを立ち上げたりしております。努力しております。事業者の方々への支援としては、経済対策第1弾、第2弾、あるいは実質利息負担ゼロの小口事業資金融資の制度などもスタートしているところでございます。また、間もなくプレミアム商品券を、総額2億6,000万円規模、2万冊発行いたしますが、小金井市商工会の事業を、小金井市は全面的に支援させていただいているところであります。また、飲食店の方々を御支援するための応援弁当の販売でありますとか、出演の機会が激減してしまっているアーティストの方々をお支えするアーティスト支援などに、現在取り組んでいるところでございます。また、さらに12月1日からは、小金井市初のクラウドファンディングをスタートいたします。医療従事者の皆様への支援と感謝の気持ちをお伝えすべく、小金井市初のクラウドファンディングをスタートいたします。休日診療医療機関における発熱患者から他の患者等への新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの感染リスクを低減するために、日曜、祝日、年末年始等の休日診療実施日に、新たに小金井市の貫井北町にございます保健センターにて、小金井市医師会と連携した市独自の感染症対策として、発熱検査・診療を開始いたします。こちらは、12月13日の日曜日から開業できるよう、今、全力で準備を進めているところでございます。実施期間は、本年12月13日から令和3年3月28日までとしてございまして、利用に際しては医療機関からの予約等が必要となります。新型インフルエンザの蔓延期とも言われている中にあります。また、新型コロナウイルスは季節性とも関連性があるとの専門家からの御指摘がありますように、気温や湿度、乾燥しているとき、この時期、これから迎える季節はウイルスの活性化が起きやすいと言われております。パンデミックは今年2月の下旬辺りからスタートしましたが、これから迎え

る季節は、私たちもコロナと向き合って初めて迎える季節でございます。そして、折しも感染拡大が急速になってしまっている状況を踏まえまして、全力で取り組んでまいりたいと考えているところであります。市役所の正規職員が約670名、会計年度任用職員の方々が約三百二十数名、合わせて1,000名の職員の皆様が毎日仕事をしております。市役所の業務も、どんな状況でも業務を止めるわけにはいきませんので、BCP・事業継続計画、職員の応援体制、こういったものを想定しながら、感染のリスクの中にあっても市役所の業務はしっかり継続できるように一生懸命取り組んでまいりたいと考えているところでございますが、私も含めまして緊張状態がずっと持続しているという状況であります。我々自身もしっかり健康管理、感染予防に努めながら、市民の皆様方の生活をお支えできるよう全力を挙げてまいりたいと考えているところでございます。後ほど、コロナにつきましては、最初のところでいろいろな御意見をお聞かせいただきたいと思っておりますので、以上にとどめさせていただきたいと思っております。今後、緊急対応方針の第4弾を策定しながら、また、来年度の予算編成の作業も進んでございますので、コロナ対策は当面続きます。中期化、長期化する懸念もございまして、そういったことも念頭に入れて取り組んでまいりたいと考えております。政府から、あるいは本日も東京都知事からも、「新型コロナウイルス感染症対策5つの約束」というものが公表されております。「1. 常にマスクを忘れない、2. 常に手洗いを忘れない、3. 常に換気に注意する、4. マスクなしで人と15分以上話さない、5. 家も職場も、毎日掃除と消毒」。様々なことに気をつけましょうということで、疲れてしまう方もいらっしゃるかもしれませんが、今ここに述べさせていただきました5つの約束は本当に大切なことでございます。自己防衛という視点も決して忘れることなく、皆さんと力を合わせてこの国難、難局を乗り越えてまいりたいと考えております。

次に、本市の最優先課題であります可燃ごみの処理についてでございます。日野市、国分寺市と本市の3市で、可燃ごみの共同処理を行うことを目的として設立した浅川清流環境組合におきまして、本年、令和2年4月1日から、日野市内での可燃ごみ処理施設の本格稼働を開始いたしました。これまで、施設の見学会については、新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となっておりますが、一応現時点では、令和3年1月中旬を目途に開始することを予定しておりますが、今後の感染状況によってはどうなるかというところでございます。詳細が決まり次第、ホームページでお知らせをいたしますが、見学ができる状況になりましたら、ぜひ1人でも多くの方々に、日野市、国分寺市、小金井市と協議

をしながら一緒に設立をしてまいりました新しい可燃ごみ処理施設を御見学いただければと願っております。小金井市では、小学校4年生が、毎年必ず新しい可燃ごみ処理施設を見学するという計画にはなっておりますが、今年度は、残念ながらコロナの関係で見学には行けておりません。大切なことは、これまで約13年間にわたりまして、可燃ごみの広域支援を多摩地域の皆様方からいただきました。平成19年の4月以降、長年にわたり御支援をいただきました多摩地域の各団体の施設周辺にお住まいの皆様、並びに全ての関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。本日お集まりの皆様方におかれましても、可燃ごみ処理施設周辺にお住まいの皆様をはじめとした日野市民の皆様及び関係者の皆様の御負担を少しでも軽減するため、さらなるごみの減量と分別、資源化の推進に向けまして、より一層取り組んでいただきますよう、引き続きの御理解、御協力をお願いいたします。

続きまして、駅周辺のまちづくりについてでございます。武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発事業が、いよいよ完成いたしました。本年5月に竣工いたしました。構想が持ち上がってから、およそ半世紀にわたる小金井市の長年の課題でございました。小金井市の一つの大きな課題であったこのまちづくりにつきましては、去る6月30日には、商業施設、ソコラ武蔵小金井クロスがグランドオープンしたところでありまして、連日多くの方々がお立ち寄りされているところを私も拝見しております。716戸の住宅部分も整備され、現在は分譲が進んで、入居も進んでいるところでございます。このたびオープンいたしました新しいソコラ武蔵小金井クロスでは、飲食店や郵便局、金融機関等のサービス、クリニックなどもでき、皆様の生活も便利になったものと思っております。私といたしましても、新たなにぎわいの場が生まれまして大変うれしく思っているところでございます。去る11月の1日には、インターイルミネーションの点灯式も行われまして、多くの方々に御覧いただいているところでございます。第2地区の皆様方は、私からの要請のお応えいただきまして、5月、6月にかけては、緊急事態宣言発令中でありましたけれども、世界的に始まっていた医療従事者の方々に感謝とエールの気持ちを送るブルーライト、「ライト・イット・ブルー」という運動を進めました。26階建て・24階建てのツインタワーの最上階では、約2か月間にわたりましてブルーライトを点灯していただきました。小金井市にも、たくさんの方々がお住まいなんです。開業している病院だけではなくて、勤務医さんや、看護師さんや、保健師さんや、保健所で働いている方、新型コロナウイルスと必死に戦っている職員の方が大勢いらっしゃいます。そういった方々から、小金井に帰ってくると、ブルーライトを見てとても勇気づけられましたというありがたい

お言葉もたくさん聞かせていただいたところでありまして、組合の方々には感謝をしているところでもあります。引き続き、東小金井駅北口の土地区画整理事業にも、鋭意取り組んでいるところでございます。武蔵小金井駅の北口の新しいまちづくりにも、地元の方々と力を合わせてまいります。今後の課題といたしましては、区画整理はこの計画をしっかりと計画どおりに進めるということ、そして武蔵小金井駅の北口の新しいまちづくりをしっかりと進めていくということが大きな課題となっております。しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

小金井市の人口でありますけれども、11月1日現在の最新の人口は12万3,458人となっております。この4か月で見ましても400人以上の増加となっております、東京都の今年8月1日の統計——これは毎月出ているのですが、人口伸び率は今、多摩地域で1位は小金井市となっております。人口の伸びが一番大きいのは小金井市です。そして、都内全域では3位となっております。また、世帯数も6万1,739世帯となっております。小金井市は12万市民、6万世帯、毎年1,000人の新生児が誕生しているところでございます。一方、65歳以上の高齢化率は21%と、全国の平均28%に比べると低い状況でありますけれども、高齢化は確実に進展しているところでもあります。そして、小金井市の人口の特徴として、平均年齢が若いということが特徴でございまして、44.11歳——これは東京都が発表している最新の数字ですが、多摩地域では2番目に市内の平均年齢が若いのが特徴です。ちなみに、1位は稲城市ということになります。また、特徴といたしましては、特にファミリー世帯の方々の転入が超過となっております、子どもたちの数がとても増えております。出生率はあまり変化はないんですけれども、ファミリー世帯、人口そのものが増えていくという状況であります。市長就任以来、待機児童の解消に全力を挙げて取り組んでまいりました。平成27年、私が市長に就任する前の4月、このときの保育定員数は2,007人でありましたが、今年4月には3,255人まで増えました。そして、今年度も新たに6園、6つの認可保育所を新設し、来年の4月1日に備えてございます。その結果、新規定員増は今年1年間で410人、総定員数は、来年の4月1日で3,665人となることを見込んでおります。正直申し上げまして、相当な数の保育園を新設してまいりました。2,007人だった定員数が3,665人でございます。しかしながら、人口増、ニーズの多様化、またニーズの増、社会経済情勢、こういったことを踏まえまして、今年4月1日の待機児童数は、昨年よりも14人は減ったものの97人となっております、待機児童の解消は喫緊の最重要課題と位置づけて、鋭意取り組んで

おります。いまだ達成できない状況でありまして、大変申し訳なく思っております。来年の4月に向けまして、全力で取り組んでいるところでございます。引き続き、子育て世代の皆様の多様なニーズに応えられるよう、努力してまいりたいと思っております。また、小金井では、長年の課題でありました産後ケア事業というものが10月、そして11月1日からは宿泊型と、日帰り型・宿泊型がスタートいたしました。これは大変ありがたい事業なんです。そして、病後児保育はあったのですが、病児保育はなかったんですね。その中で、昨年11月には、桜町病院の中に1園、病児保育を開設できました。そして、今年も、10月だったと思いますが、2園目の病児保育を、武蔵小金井駅の南口のすぐ駅前に開設することができました。これで3園、病児・病後児保育園の事業者にも、大変重要なお仕事を担っていただいていることであります。また引き続き、多様なニーズに応えていけるように努力をしてみたいと思っております。

続きまして、公共施設の整備についてでございます。現在、新庁舎・(仮称)新福祉会館建設や、不燃系の清掃関連施設の建設に向けて、鋭意取り組んでいるところでございます。先行いたしますのは、まず二枚橋の跡地に新しい不燃系の清掃関連施設を新設させていただきます。11月の下旬には市民の方々に向けました建設説明会を開催し、来年早々には建設着工を考えております。現在、実施設計に取り組んでいるところであります。その後、中間処理場に2つ目の清掃関連施設を建設する予定でございます。これは、中間処理場の老朽化や、暫定となっている庁舎建設予定地の缶・ペットボトル施設の老朽化、こういった課題を解決するための事業でございます。二枚橋焼却場の跡地と、貫井北町にある中間処理場の2か所に、新しい不燃系の清掃関連施設を再整備する計画でございます。二枚橋跡地につきましては、市議会での議決を踏まえまして、設計・施工一括発注により、現在作業を進めております。二枚橋の跡地では、粗大ごみの処理などを行う施設の基本設計が現在終わりまして、実施設計に取り組んでいるところでございます。令和4年春の本格稼働を目指しまして、現在作業を進めているところでございます。また、新庁舎・(仮称)新福祉会館建設におきましては、実は今日も市議会でも特別委員会が行われたところでありまして、活発な御審議をいただいたところでありますけれども、現在、実施設計が、鋭意その作業を進めているところでございます。

まもなく、もう6時半を過ぎましたので、お伝えしたいことはいっぱいあるんですけれども、この辺りで最後の報告にしたいと思います。お手元に、小金井市予算の概要という資料をお配りさせていただきました。ぜひ御覧いただきたいと思っております。この中の事業、

また御当地では、桜町ということで、この地域に関連する事項などを踏まえて、少し、今年度どのような事業に取り組んでいるのかというところを御紹介します。

14ページの真ん中、「公園灯LED化事業に要する経費」ということで、計上してございます。小金井市では、約8,000灯ありました街路灯を、既にほぼ全てLEDに交換しました。今は、市立公園の中にある街灯・街路灯を全てLEDに変える工事を順次展開してまいります。また、15ページの一番上には、今申し上げた「清掃関連施設整備に要する経費」ということで、計上させていただいております。また、16ページをお開きいただきたいと思いますが、こちらでは、木造耐震診断助成金や耐震改修、地震への備え、またブロック塀を撤去する費用を助成する制度を新設させていただきました。その他もろもろ、新規事業につきまして、様々なことを計上させていただいておりますので、ぜひ御参照いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上、今般の新型コロナウイルス感染症対策や、私が特に重要な課題と位置づけている点につきまして、申し上げさせていただきました。これらのほかにも様々な課題がありますし、皆様の関心も様々だと思っております。本日は皆様との対話を通じまして、限られた時間ではありますが、たくさんの御意見・御提案をいただき、それを今後の市政運営へしっかりと反映させていきたいと思っておりますので、どうぞ活発な御発言をお願いいたします。最初はコロナのほうから、いろいろと皆様方からのお声をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

### 3 懇 談

#### ○司会者

それでは、意見交換に入らせていただきます。今回は、最初はコロナの関係をテーマにしまして御質問を賜りまして、その後、フリーテーマという形にさせていただければなと思っております。あと、今回、遅い時間にもかかわらず多くの方に御出席いただいておりますので、できる限り皆さんに多く発言していただければなと思っております。発言される方につきましては、要点を絞って簡潔にお話しいただき、大体二、三分程度にまとめて御発言いただければなと思っております。なので、5分を超えるような場合は、もしかしたら私のほうからお声をかけさせていただくこともあるかと思っておりますけれども、すみません、そのところは御理解と御協力のほどお願いしたいと思います。それでは、今回はコロ

ナの関係で、御質問のある方はお願いします。

○市民A

今日はありがとうございます。マスクをつけたままですみません。3点お願いいたします。このコロナ禍で、自殺者数が大変増えております。特に、女性が増えているとの報道があります。これに対しての対策、予算とか、そういうものはありますでしょうか。もう1つが、コロナ禍における災害に対する対策です。避難所などへの対応は、この後、何か対応策などはございますでしょうか。もう1つが、やはりコロナの、今の「5つの約束」などで、大変、コロナ鬱というものが発生しております。これに対して、精神科の専門家などへの連携などは行われる予定はございますでしょうか。よろしくお願いいたします。

○西岡市長

ありがとうございます。とても大切な、重要な御指摘や御質問をいただいたと思っております。コロナ禍における、またコロナによって増加していると思われる自殺対策、感染症対策下における災害対策、また、コロナ対策によって引き起ってしまったコロナ鬱への対策でございます。まず、自殺者対策でございます。折しも、小金井市は昨年度、初めて小金井市自殺対策計画というものを策定いたしました。資料は今、全てホームページ等に公表させていただいております。専門家の皆様方に、かなり御熱心な御審議をいただきまして、策定をさせていただきました。私、市長といたしましては、小金井市長ですから、小金井市内においては、自殺はゼロを目指したいと。これは率直な思いです。昨今、報道を見ますと、若い芸能人やタレント、俳優、私も残念ながらよく目にする傾向が増えているなど思っております。様々な事情があると思います。孤立や、その方を取り巻く支援の手、差し伸べる手や、寄り添っていける環境というものがなく、とても大切な貴い命を自ら断ってしまうという、本当に残念なことです。悲しいことです。決してあってはならないことだと、本当に私も思っています。先般、自殺対策計画に基づいて、初めて講演会を開催させていただきました。メンタルの専門家の先生にお越しいただいて、講演をいただきました。また、小金井市ではこれまでも、ゲートキーパーを増やす取組を進めてきたところでもあります。幅広い年代において、こういった残念な事象というのはあるわけがありますけれども、その年代年代に合った適切な取組というものがあろうかと思っております。市といたしましては、ゲートキーパーの要請や、策定した自殺対策計画に基づいて、

これまで実施できていなかったような事業をしっかりと展開してまいりたいと思っております。特に10代、20代、若い方々の自殺もしっかり受け止めなければいけないし、深刻な状況なのだろうと考えております。そういう意味で、教育機関ともしっかりと連携をしまして、その取組を推進してまいりたいと考えているところでございます。災害対策です。去る11月の1日に、小金井市総合防災訓練を実施いたしました。毎年、誰でも参加できる、たくさんの方々に来ていただきたいと呼びかけをして、防災訓練を行ってまいりました。私が市長に就任してから、初めての取組として、例えば東京学芸大学と連携した、大学を会場とした防災訓練、東京農工大学でも開催しました。今年は、本来はすぐ近くの第一中学校で開催する予定でしたが、コロナの関係で内容を変えまして、今まで実施する必要性がありながら、なかなか実施できていなかったような課題、まあ対象者を絞って、コロナの関係がありましたので誰でも参加できる防災訓練ではありませんでしたが、災害関係者の方々に集まっていただいて、コロナ対策を施した上で防災訓練を実施いたしました。市役所では、私ども市長、理事者、部長職では、災害対策本部設置・運営訓練を行いました。また、消防署と消防団の皆様方には、震災時を想定した図上訓練を消防署で行っていただきました。そして、御指摘の感染症対策下における避難所の運営ということを、東小、四小、一中、この3会場で、初めて実施をさせていただきました。コロナの感染が引き起こっている状況の中で震災などが起きた場合、避難所をどう設営するのかという視点で取り組んだものでありまして、いろいろな課題が把握されており、今、そういった課題の整理をしているところでございます。今年に関しましては、幸い、今のところ、大型台風による被害はなかったんですね。しかし、去年は台風19号、まあこの三、四年は毎年毎年全国で甚大な被害が発生しておりまして、小金井もこれから先、例外ではありませんので、東京都のハザードマップも改定されているところでありますので、風水害と地震というものをしっかりと念頭に置いた、感染拡大のさなかにおける災害対策というものにしっかりと取り組んでいきたいと思っております。やはり避難所の設営というのが、ある種、一番密になりやすい部分でもありますし、また帰宅困難者対策にも関連する部分でありますので、大災害発生時に密となるような可能性のある部分について、どのような設営をしていったらいいのかということを考えています。小金井市では既に、東京都の方針も参考にしながら、避難所開設における感染症対策方針というものも策定をさせていただいたところでございまして、今後こういった感染対策も念頭に入れ、引き続き力を入れてまいりたいと考えているところでございます。コロナ鬱に関してでございます。私も、そういった方が今

発生してしまっているというお話は何っております。特に、これまでにない不安、いろいろなことに対する懸念、また、鬱とは若干それるかもしれませんが、一つ深刻なのがコロナ差別であります。これまでも、人権問題に関わるということで、コロナに発生した人は、その人が悪い、その人を責める、その人を社会みんなで攻撃をするということではなくて、悪いのはウイルスですから、人を責めるべきものではないと思います。特に、子どもたちの世界で、例えば、決してコロナではないんですけども、学校を1日でも休んでしまえば何か言われてしまうんじゃないか、そして体調が悪いことを言えなくて、無理して通ってしまっている子がいるんじゃないか、そういう心配もあります。ですから、コロナ差別を絶対起こさないということで、人権問題にも今取り組んでいまして、先般も、この地域の人権擁護委員会の方々が、コロナ差別をなくそうという新しいポスターを作成しまして、既にC o C oバスに掲示してあります。また、今、市でもカラー印刷を一生懸命して、公共施設などにも取り組みます。また、大熊教育長ともこの件についてはずっと話をしていまして、学校でも既にいろいろなことに取り組んでくれていますが、引き続き分かりやすいポスターの掲示なども含めて今、教育委員会でも取り組んでいただいているところでございます。時間の関係で、以上とさせていただきます。再質問があればどうぞ。

○市民A

大丈夫です。

○司会者

そのほかに、コロナの関係で御質問のある方がいらっしゃいましたら、挙手のほうをお願いします。

○市民B

質問じゃないんですけど、先ほどの避難所の件なのですが、最近、段ボールベッドとパーティションがすごく効果的じゃないかというところで、ほかの自治体でも導入されたところがあると思うんですけど、要は、プライベート空間を作るということはコロナじゃなくてもすごく大事なことだと思うので、それをぜひ導入していただきたいなと思います。

○西岡市長

貴重な御要望・御意見、ありがとうございました。既に、段ボールベッドやパーティションは、購入を毎年進めております。先般、私も5つの訓練会場を全て視察しました。私も市役所の参加者ですから当然なのですが、一中では段ボールベッドの設置訓練も行っていただきました。私も実際、段ボールベッド、組み立てたものに乗ってみたり、座ってみたりしました。非常に頑丈でありました。御指摘のように、感染症対策にも、やはりパーティションの必要性はありますし、仮に感染症対策がなかったとしても、プライバシーの保護ということで、この間も継続してずっと買い足しをして、備蓄をしてきました。今は具体的な数字は持ち合わせていないんですけども、これが充足するように、これからもしっかり予算化を図っていきたいと考えているところでございます。また、備蓄品につきましては、コロナの関係で、非接触式体温計でありますとか、マスクでありますとか、手指消毒液でありますとか、これまで以上に感染予防につながる備品も相当数必要な状況となっておりますので、こういったものも既に予算化しまして、順次購入を進めているところであります。以上です。

○市民C

コロナの予算のことなんですけれども、事業の支援とか芸術家の支援とか、いろいろあると思うんですけれども、収入が減った分を下支えするという時期は、ある意味、最初の二、三か月でもう過ぎたんじゃないかなと思って、もうそろそろこの状況を逆に生かして、新しい事業を起こしていくという発想が必要なんじゃないかなと思っています。そういう意味で、応援弁当とかはすごくすてきな取組だなと思ったので、私も渋谷とかでチラシを配ったりとかしていたんですけれども……。

○西岡市長

ありがとうございます。

○市民C

ああいうことで、また逆に、まちの、今まで行ったことのないお店を知ることができるすごくすてきな取組だなと思ったんですけれども、ほかの、例えば芸術家支援だとか、飲食以外にも売上げが減ったお店はいろいろあると思うのですが、今、仕事が激減しているから時間がある、これを逆に一つまちの事業として、事業を起こしていくという取組はあ

るのでしょうか。

○西岡市長

ありがとうございます。これはまた、非常に重要な御指摘・御質問だと思います。まずは、私がコロナと向き合って10か月です。感じていることは山のようにあるんですけども、今までなかった変化、そして肯定的に受け止めている変化が2つ3つあるんですね。

1つは、明らかに、今までは通勤をして、小金井市は基本的には休むところ、寝る場所という方もいらっしゃる。しかしながら、テレワークや在宅ワークが加速度的に進みまして、日中も含めて小金井で過ごす時間が飛躍的に長くなっている方がとても多いです。そういった皆様方は、日中散歩をして、今まで行ったことのない公園に行ったり、あるいはお昼御飯を食べるので、自分なりにおいしいお店を探してみたり、テイクアウトしてみたり、地域への発見、再発見といいたいでしょうか、コロナによって、今まで見られなかった小金井市地域のいろいろなものが見えてきている。そして、そのことによって人とのつながりも芽生えつつあるということは、前向きに捉えている変化です。2つ目が、これまで以上に政府や地方行政、政府は当然のことだと思いますけれども、特に都政や小金井市政という身近な地方行政への関心というものは明らかに高くなっていると思っております。それも、私としては、市政への関心を持ってもらうという意味では、コロナが引き金になっているところは若干皮肉なところもありますけれども、しかし、それはそれで、小金井市政ではどんな取組をしているのか、今私たちの生活をしっかり支えてくれているのかどうなのか、こういったことをいろいろな意味で皆さんが厳しい目で御覧になっていると思いますので、それは、私は、市長としては、とても前向きに捉えているところであります。コロナ禍を受けた新しい事業についてということでございます。御指摘のように、緊急事態宣言を発令したり、休業要請をしたりという状況と今とは、若干局面は変わってはきています。今、小金井市は様々な経済対策の中でも、第2弾の締切りが11月30日と迫っているところであります。今後の感染状況によっては、引き続き収入に大きな影響を与えるような局面もあるかもしれませんので、それはまた引き続きしっかり対応していきたいと思っておりますが、御指摘の新しい事業です。1つは、テレワークの環境を進めてほしいという声もあります。いろいろな取組がスタートしておりまして、小金井市ではKO-TOという、事業創造センターというのが東小金井にあります。あちらで初めて、新規事業で、たしか月8,000円だったと思うんですけども、詳細はホームページを御

覧ください。市のホームページから入れますが、シェアルームの中でテレワークができますよ、御利用くださいという初めての事業もスタートしたところです。また、民間のホテルも、ホステルというところがテレワークでお部屋を貸し出しているようなところも始まりまして、そういった情報を市として提供していくことも、これから考えていかなければいけないと思っております。また、現在、小金井市観光まちおこし協会と連携いたしまして、新しい生活様式の中で、これから地域のコミュニティーをどうやって構築していったらいいのだろうかという、今、予算をつけまして、鋭意検討をさせていただいているところです。まだ結果は出ておりませんが、こちら新しい生活様式に伴う地域コミュニティーの在り方、こういったことを考えるような事業化に結びついたらいいなと考えているところでもあります。また、新しい事業という意味におきましては、GIGAスクール構想や、先ほども申し上げましたように高齢者の方のICT環境をサポートしていくような事業を、私はぜひスタートしたいと思っているんですね。民間では、例えば、呼名は挙げませんが、いろいろなスマホ・携帯の事業者の方が高齢者向けの教室をやると、すごい募集だそうで、大変な大人気で、全ての方々を受講生として受け入れることができないと聞いているんですけれども、大変関心が高いんですね。やはり、そういった高齢者の方の、デジタル・ディバイドというのは古い言葉ですけれども、ICT環境をしっかりと整えたい、そう願っている方々にどのような支援ができるかということを考えるのが大事なと思っております。現在、シルバー人材センターといろいろと協議をしております、高齢者の方々のICT環境を整えるときには、やはり同じ世代の方々がどういったところに苦勞するのかという視点を分かっている方が一緒になって勉強したほうがいいのではないかと思います。今シルバー人材センターの中に、ICTに非常にたけた方も大勢いらっしゃいます。こういった方々と高齢者の方々のICT環境をもっともっと身近なものにしていくような講座でありますとかを、市が支援をしていく、そういう事業にも取り組んでいきたいなというふうに考えているところでございます。まだまだ、もし、こんな事業をやってみたらどうでしょうかという御提案・御提言があればぜひお聞かせいただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

#### ○市民C

追加の質問になっちゃうんですけれども、つまり今、テレワークとかを推進して環境を整えようとしていた、そこは分かったんですけれども、今足元で収入が減った人たちに対

して新しい事業を起こしているという取組は、まだなされていないということ。単発的にはもちろん取り組んでいらっしゃるんだと思いますし、むしろ収入が減った方々が自主的にいろいろ取り組まれているということはたくさんあると思うんですけども、市として、まちの活性化というか、まちの事業化として、大きな事業、一つのまちづくり事業じゃないですけども、そういう感じでやっていく事業というのは、今のところはまだ、具体的に動いているようなものはあるんでしょうかということが1点。あと、提案というほどの提案ではないんですけども、例えばアーティストの方というのも、今、時間があるときとか、例えば学校とかで、普段、学校の先生から教わることができないようなプロの仕事としての芸術活動とかを、時間をかけて教えてもらえるチャンスなんじゃないかなと思うんですね。全4回とか6回とかで、プロの仕事というのは、例えば学校でやる音楽なり図工なり、そういうものとはこれだけの違いがあるんですと。例えば、私は元記者だったからそう思うのかもしれないですけども、子どもの作品とか文章というのでも、プロの文章力と作文に求められる文章力というものはすごく違うと思いますし、そういうものを逆に、セミナーを開いてもらう、そしてその謝礼を払うことで収入にもつなげられる。それが、たまに1回2回の講座みたいな形ではなくて、恒常化させるようなことになると、小金井はすごく独自の教育をしているというような、すごく個性的な教育をしている小金井市というスタンスも取れるようになるのではないかなと思います。

#### ○西岡市長

貴重な御提言、ありがとうございました。それに近い考え方として、実は今、教育委員会とずっと継続的に協議しているのは、もちろん芸術家やアーティストの方で困っている方も大勢いらっしゃいますね。今、予算規模は限られていますが、100名を対象とした動画の募集をしております、選考も終わりました、いよいよ動画の申請を受け付けていくということで、アーティスト支援については第2弾を打っていきたいとは考えておりますが、御指摘の継続的な雇用といいましょうか、その方の家計全体を支えていただくだけの事業の構築には、残念ながら至っていないというところではありますが、参考にはさせていただきたいと思っております。そんな中で、大学生の方々も、コロナによって非常に困窮したり、困っている方も大勢いらっしゃいます。小金井市は、御承知のように大学が多く、本市も6つの大学と包括的連携協定を締結させていただいております。先ほどは平均年齢が44.11歳と若いんですよというお話をしましたが、学生が多いということも一つ

の要因になっていると思います。その学生の方々と、公立小中学校14校を結ぶ事業を構築できないかという、今、検討をしております。将来教員を目指す学生さんも、市内には多いです。在住・在学の方々を対象として、公立小中学校における、例えば学習支援であったり、あるいは放課後の居場所であったり、あるいは学校長が必要と思う業務であったり、いろいろな業務が学校の中にはありまして、学校も今、感染症対策も含めて大変な毎日であります。先生たちも、本当に一生懸命頑張っておりますが、すさまじい緊張感の中での学校運営となっております。そういった中で、これまでになかった大学生の方々が働ける場所として、期間はアルバイトになってしまうかもしれませんが、期間は限定になりますが、大学と学生を結ぶ新たな事業の構築に向けて今、検討しているところであります。また、市役所での職員募集に際しても今、会計年度任用職員制度という新しい制度ができましたけれども、コロナ対策の関係で今、正直申し上げまして、緊急に人員を確保しなければいけない状況があります。時に民間委託によって、事業者に業務を委託するようなケースもあれば、直営でやっている業務に関しましては臨時職員を急遽募集したり、会計年度任用職員を学生も含めて募集しております。市役所における雇用の、緊急雇用という視点も踏まえて今、様々な募集をしているところであります。御指摘であった学校と芸術家、例えば絵や音楽など、そういったプロの方々と学校とが結びつくような、そしてその方々の事業をお支えいただけるような、そういったものが小金井らしい教育になるのではないかという御意見は、大変貴重な御意見として参考にさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

○市民C

すみません。前半の質問の、今事業化されているものとか。

○西岡市長

コロナを踏まえた新しい雇用を生み出す事業というものは、現在のところはまだ明確なものはないかなというふうには考えておりますが、大いに検討してまいりたいと思っております。

○司会者

次の方、いらっしゃいますか。コロナの関係で。よろしいですか。はい、どうぞ。

○市民D

どうも、こんばんは。

○西岡市長

こんばんは。

○市民D

前回の座談会で、コロナのCOCOAというアプリケーションをもっと小金井市で進めたいかというお話をさせていただいて、市長のほうで検討していただいて、市報のトップの画面に、一番目立つところに出していただいてありがとうございました。座談会の意味があるんだなと、市民がお願いすればすぐにやっただけなんだなと感じ、感謝しています。ちょっと厳しいことを言いますと、せっかくトップで一番いいところにCOCOAのことを書いていただいたのですが、何のためにこれをやるのかというような、小金井市としてのメッセージ性が全然ないんですね。厚労省か何かの文章をぺたっと貼り付けているだけで、せっかくあの紙面を有効に使うとしたら、もう少しCOCOAというのがどういう機能を持っていて、誰のために何になるんですよ、それともう1つは、市民が協力しないとこのシステムは成り立ちませんよというようなところを、もうちょっと言ってもらったのもっとよかったのかなと。こういうことがなぜ起きるかという、やはり担当者がそこまでよく理解していないのではないかと。そういうことが多くあると思いますので、改善していただくと、座談会の目的もますますよくなるのではないかと期待しております。

○西岡市長

御指摘をいただきました。ありがとうございました。市報には掲示をしてございます。もうちょっと分かりやすい説明などを加えていただきたいということでございましたので、検討させていただきたいと思います。健康課を中心に、COCOAにつきましては、日々厚労省などから様々な情報が発信されたり、また、ソフトも大分、途中不具合があったりして大きな課題がありましたが、いろいろ改善をしているということでありまして、濃厚接触の、自分の置かれている環境について把握する上でも非常に効果的なソフトと認識し

でございます。引き続き検討させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○司会者

あと、コロナ関連で御質問のある方は、ございますか。

○西岡市長

どうぞ。どんなことでも結構ですので。

○市民E

はい。

○西岡市長

コロナ関連です。

○市民E

コロナ関連？

○西岡市長

今はまだコロナ関連をやっています。

○市民F

どんなことでもいって言ったじゃん。

○司会者

一番前の方。

○市民F

すみません。度々申し訳ありません。コロナの中で、もう一つの懸念というのが、子どもたちへの影響です。先ほどのGIGAスクール構想であります。コロナの差別とかが

あって、今日のニュースでも、わざとPCR検査を子どもに受けさせなかった、なぜならば陽性の場合、差別を受ける可能性があるということでした。先生方にも、中には、検査を受けて陽性になった場合に、自分の生徒などに対しての影響が出るのではないかという懸念も見受けられる可能性もあります。また、子どもの出席日数、例えばネットでこれを受けた場合に出席日数になるのかとか、いろいろなものが、要は家庭内学習の場合の対応などについて、どのようにお考えでしょうか。

#### ○西岡市長

まず、GIGAスクール構想は、1人1台の端末が確保され、そして御家庭におけるWi-Fiの環境にも支援策を持っております。アンケートも取りました。中学生でWi-Fi環境がない方が、約2%、小学生の方で約3%でございます。それで、Wi-Fiのルーターを、たしか100台前後レンタルしまして、無償で貸出ししております。また、接続環境がなかなか分からないという場合にも、これは大熊教育長から聞いたのですが、ある学校はおやじの会とか、そういった分野に詳しい方々がみんなで協力するよと言ってきて、そういった御家庭の支援に乗り出すよと言ってくださっている学校もあるようでございます。そういった地域の方も借りて、もしも学校に行けない事情が生徒さんにあった場合はこの端末も活用させていただいて、これはコロナということではなくて教育全般に有効に活用しようということを今、教育委員会のほうでは考えていただいております。そして、先般のGIGAスクール構想説明会でも、教育長や指導主事や校長先生から様々な報告をいただきました。小金井市の場合は、幸い、プログラミング教育を先行実施していた前原小学校、そして本町小学校が、かなり全国でも先駆けた形で、このような学習を進めてまいりましたので、こういったノウハウを生かしてオンライン教育を多面に有効に活用していただきたいと考えているのが、まず1点でございます。

また、家庭環境ということで申し上げますと、様々な御家庭がございますので、各校長先生や教育委員会の皆様方としっかり連携を取っていただいて、その御家庭に適したアドバイス、助言というものを行っていけるように努力してまいりたいと考えております。

以上です。

#### ○市民G

すみません。アーティスト支援の件なんですけれども、私、今回の動画募集で応募して、

作ることになっているんですけども、多分の次の予算とかで、また新たにやるみたいなき感じではあるのかなと思うのですが、今回、私は条件にたまたま当てはまったんですけども、例えば過去1年以内に市内の仕事で対価を得た人という条件であったりとか、その辺りは結構ハードルが高すぎると。しかも、動画を作るという条件で5万円という報酬というか支援だと思うのですが、それについて、かなり微妙だなと正直思ったんですね。というのは、東京都のアーティスト支援は10万円という額だったんですけど、かなり条件も緩くて、過去1年に都内で仕事をしてきたとか、そういう条件は全くなかったんですね。だから、知り合いのアーティストとかで、市内でかなりバンド活動とか絵とかをやっている方でも、普段は、例えばイラストの仕事を市外から取ってやっているという方もいたと思うんですね。そういう人は、多分当てはまらなかったんじゃないかなと思うので、その辺りを、次の支援策ではどういうふうに考えているのかなというのがすごく気になります。私は今回のときに、この条件は厳しすぎるんじゃないですかという意見をコミ文のほうに実際送ったんですけど、それに対する検討や回答はなかったんです、実は。そのときに、テキストと画像だけで自分の普段の活動を紹介するという応募の仕方をして、その普段の活動を市のほうでポータルサイトみたいにして、市内にこんなアーティストがいますということを紹介するサイトを作ったらどうですかという提案をしたんです。それだったら、5万円だったとしてもそんなに準備するのも大変じゃないし、それで、もし、ほかのところから仕事 cameたらすごく助かると思うんですね。そういう形が、もし5万円という額だったら割といいんじゃないかなと思ったんですけど、次の支援策はどのように考えているのかなというのをお聞かせいただきたいなと。

#### ○西岡市長

まず、市のアーティスト支援の事業に応募いただきまして、ありがとうございます。ぜひ、すてきな動画を作成してください。楽しみにしております。まず第1弾として100名、そして予算規模五百数十万円で、謝礼金として、採用されたら5万円。たしか複数で申込み——2名、3名、4名という形で、上限があったとは思いますが、グループでの申込みも可能であったかと思えます。第1次選考も終わりました、今度はおっしゃるとおり動画の作成、成果品を、恐らく締切りに向けて受け付けまして、いよいよユーチューブに載せていくという終盤の作業に入っております。このアーティスト支援は、東京都の事業と非常に似ている事業ではありますが、小金井市においても、私としてはこれをやる

意味がある、意義があると考えました。その方への支援につながるだけではなくて、この動画を通じて多くの市民の方々にももちろん見ていただきたいし、御覧になっていただけると思いますが、今までになかったつながりが芽生えていく可能性もありますし、発見にもつながるでしょうし、効果的な側面が非常に多いなど。初めてやる事業です。御指摘のように、小金井市の場合は、申請の基準の一つに、1年以内に小金井市内においてお仕事をし、収入を得ているということが条件となっております。そのことについて、厳しいでありますとか、申し込みたかったけど私は申し込めなかったというような声は届いています。したがって、具体的なことは申し上げられませんが、第2弾の指示をしてございます。アーティスト支援第2弾も指示していますから、まず一つ今はっきり申し上げられることは、今般対象とならなかった方、基準をどのような形で広げていけるのか、このことについて、当然のことながら考えています。そして、動画作成とそれに見合った金額との関係については、若干検討が必要かなと思っておりますし、難しいのは、動画の作成も、その方の感性といいましようか、何を作るかによって、非常に作り方はいろいろなものがあるようなんですね。なので、若干、担当ともこれから検討させていただくんですけども、私としては第1弾で終わることなく、今日申し上げられることとすれば、第1弾で対象とならなかった方を対象にできるように、そして第1弾で見えてきた課題を整理できるものは整理して、改善して、第2弾につなげていきたいと考えているところです。今日のところは、そういうところにさせていただきたいと思えます。

#### ○市民G

一応、もう一言付け加えると、動画を作るって意外と大変なんですよね。普通に撮った動画をアップするというのはすぐできると思うんですけど、人が見て楽しめるレベルの動画を作るというのは、やっぱりそれ専門の方が作らないとそれなりのものは作れないので、普段別の活動をしている方がそういう動画を作るって結構大変だと思うんですね。だから、そこら辺をもうちょっと考え直していただいたほうがいいかなと思います。

#### ○司会者

そのほか、コロナ関係で御質問のある方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

#### ○市民H

こんばんは。私ごとで恐縮なんですけれども、常日頃、私は保育士として小金井の公立の保育園で今まで勤務してきましたんですが、今はこども園なんですけれども、とはいえ、正規職員ではなく非常勤、パート職なんです。最初の3月の緊急事態宣言のときは、保育の御家庭が登園自粛になる中、正規職員さんはシフト制になって、在宅勤務となり、なので、私はどちらかというと毎日出勤しまして、今テレワークと言っている御時世の中、現場で働けるというのは、ある意味とてもありがたいことではありました。今回、ここで、保育事業者などへの支援で、職員に対し慰労品を支給となっているのですが、この職員というのは正規職員ということなのかなという疑問がございます。どこの保育園も、パートや非常勤がいないと成り立たないと、私はとても自負しているのですが、職員か職員じゃないかという色分けがあるのかなと。職員さんは、これは園の対応なのかな分からないんですけど、私はそういう感じで、ずっと3、4、5、6月までほとんど毎日、正規職員さん以上に働いていました。御自分で身の危険を感じるというパートの方は自らお休みされていたんですけども、何か、正職さんは休職手当が出て、パートさんは結局何も出なかったとかいう話もあったりして、何というか、その辺をどう行政で考えて、やっていただけるものなのか。私はとても、とにかく働けることだけでもありがたいなとは思っているんですけども。もう1点。私は保育士の資格を生かして、保育のサポーターの自主グループを運営しているわけなのですが、今回コロナ禍で、ファミサポさんが見つからなかったとって頼まれることがあるんですね。自主グループなので、後ろ支えが何もなく、保育士として保育士保険というのはもともとあるわけですが、今回、ファミサポさんは利用料の助成もあるということで、いろいろな保育の支え方というのがあると思うのですが、そういったものは何か、いろいろな御要望があるので。本当に皆さんお困りで、ファミサポさんが見つからなかった、洗濯機のスイッチを押すこともできないと。保育士なんですけど、家事もやってもらえないですかとか。せめて保育ぐらいはサポート差し上げたいと思うのですが、通常従事している保育園以外の曜日、勤務外の土曜とか日曜とか、ファミサポさんが見つからない、ちょっと来てほしいと頼まれたときに、保険とか保障とか、そういうものがあると、私は自主グループを運営している中で、スタッフの皆さんへの心の支えや安心につながるのではないかなと感じております。何か、いい御協力をいただけたらありがたいなと思っております。よろしく申し上げます。

○西岡市長

まずは、市内で保育士として、感染リスクの高い中で、子どもたちのために、子育て中の御家庭の支援のために連日御尽力いただきまして、本当にありがとうございます。市長として、心から御礼と感謝を申し上げます。まず、御指摘の保育従事者支援、慰労金の支給の関係ですが、今月中にも対象者の方々にお送りする準備を今、担当で進めております。対象のところにつきましては、現状、予算を可決させていただいてから、各園の方々と、いろいろなお声をいただきながら、また園によってもいろいろな方針があるようでございます。そういったことを踏まえて、市の基準と、実際の状況がどうなっているのかということについては、担当からヒアリングして、追って御報告をさせていただきたいと思っておりますので、よろしいですか。

○市民H

ありがとうございます。

○西岡市長

基本は正規職員というところから発送しているものと思われるのですが、現状、担当も、議会でこの予算を可決させていただいてから、いろいろな事業の詳細をさらに組み立てています。しかし、現時点でまだ園からそういうお話がないということであれば、残念ながら正規職員の方や、多分勤務時間というのが一定基準にもなるのかなと思っているんですけども、この後持ち帰らせていただいて、追って詳細を御報告させていただきたいと思っております。それから、自主グループにつきましては、たくさんいます。大変ありがたいことです。まず、市の助成制度や、また待遇面などについての、市からの様々な事業の構築に向けた連携というものが十分行われていないグループもたくさんあるかと思っております。これは課題と受け止めております。今後、そういった自主グループの皆様方と市との関係については、ぜひ検討はさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

※保育課より回答

小金井市新型コロナウイルス感染症対策民間保育事業所等職員慰労品支給事業の支給対象者については、次の(1)から(4)の条件に基づき、支給対象者を選定しています。なお、令和2年12月8日時点、各施設から申告いただいた支給対象者数分の慰労品について、申告があった全施設に配布済みであり、今後支給が完了したら報告をいただくこととなっています。

(1) 対象施設に令和2年5月25日時点で就労しており、令和2年9月1日現在も引き続き雇用契約※に基づき就労を継続している者を支給対象者とする。

※ 本事業における雇用契約とは、施設を運営する法人等と直接の雇用契約かつ勤務地が施設所在地となっているものを指す。

※ 人材派遣や有償・無償ボランティアなど雇用契約を伴わない者は支給対象者とはみなさない。ただし、雇用契約がない法人代表者等で対象施設を主たる就労場所とし、その対象施設の業務に直接従事している場合は支給対象者とする。

※ 雇用契約において職種、雇用形態（常勤等）は問わないものとする。

(2) 複数の対象施設で就労している場合又は同一施設内で補助対象事業を兼務している場合は、主たる就労先において支給すべき支給対象者とし、複数回の支給は受けられないものとする。

(3) 本事業と同主旨の事業である小金井市新型コロナウイルス感染症対策介護事業所職員慰労品、小金井市新型コロナウイルス感染症対策障害福祉事業所等職員慰労品の支給を受けた者は支給対象者から除くものとする。

(4) (1)から(3)の条件を満たすが、産前産後休暇、病気休暇など対象施設の就業規則等に基づく長期休業中である者については、令和2年4月1日から令和2年5月25日までの期間において就労の実績が1日でもある場合は、支給対象者とみなすものとする。

○司会者

そのほか、コロナの関係で御質問のある方、よろしいですか。それでは、ありがとうございました。

○市民 I

全部、人命に関わることを4つばかり。この中でもアーティストの方が随分いらっしゃ

るんですが、アーティストは、コロナが収まるまでちょっと我慢してもらいたいなということなんです。

それから、小金井の活性化ですが、昔、小金井温泉を掘ろうという案が出たんですよ。そのとき、市で金は出せない。誰かお金持ちが自分たちで掘るんだったら賛成だと、市はそういう答えだったらしいんですね。だけど、「おふろの王様」って小平にあって、府中にも府中温泉というのがあって、あそこに定規を当ててみると、ちょうど武蔵小金井駅がその上にかかるわけです。だから、何か湯脈がそのところにあるんじゃないかなと思うんですよ。だから、全部小金井市の負担ということは言いませんけど、さっき何十億とか何億とか言っていたけど、温泉1本掘るのに1億かからないでしょう。それが2つ目。

3つ目は、万年堀とか、崖の堀ね。これを取りのけろって言うけど、これ、市長さん、できますか。こういう堀を持っているとか、崖の防護施設を持っているというのは、みんな、小金井の大地主が持っているんですよ。どういうふうにして、堀を片づけて、倒れないようにするのか。その計画を教えてください。

それから、前回の座談会で言ったんですが、道に白、黄色、緑、赤という、こういう色が塗ってあって、その場所の区画を表しているんですよ。ところが、この前のときに質問したんですが、1つ質問し忘れたのは、これは私、緑と赤は滑らないけど、白と黄色の標識が滑るんですよ。私も滑った。滑っているおばさんも見た。だけど、小金井市で、それは話したんですよ。白と黄色はもう少し砂を多く混ぜるとか、赤と緑のペンキのようにしてくれないかと言ったの。そうしたら、小金井市役所では、それは警察の管轄ですって言うの。それで、俺、警察へ行ったよ。小金井警察署へ行った。そうしたら、これは市役所の管轄だと。じゃ、どこに言えばいいんですか、私は。

○市民J

今はコロナの。

○市民I

コロナじゃない。コロナじゃない。コロナではありません。

○西岡市長

今はフリータイムです。

○市民 I

以上、この4点です。

○西岡市長

4点ですね。アーティスト支援は、非常に重要な支援でございます。〇〇さんも御存知だと思いますが、小金井市にはたくさんの音楽家、芸術家、いわゆるアーティストと称される、これは非常に広いんですね、範囲が。能楽師、ダンサー、古典芸能、挙げたら切りがありません。たくさんの方々になりわいとして、その文化を守るために、またその方の目標、いろいろなものがあります。自己実現のために、様々な分野で、小金井でも多くの分野で大活躍をされてきた方がたくさんいらっしゃいます。このコロナ禍によって、軒並み出演、レッスン、講師、今までずっと抱えてきたお仕事がほとんどなくなってしまった方がたくさんいらっしゃいます。こういった方々を支援していくのは、私は市の使命だと思っています。小金井市が取り組んだ第1弾は、人数100名、助成額も一定限られておりまして、市長といたしましては、もっと充実させなければいけないと思っております。また、そういった方々が活躍できるような場、機会というのも構築していきたいと思っています。ジェイコムで「長つと散歩」という、市長がまちのいろいろな魅力を紹介する番組があるのですが、ちょうど11月16日から小金井市版の放映がスタートしました。11月30日までです。今回は、私もそういう視点に立ちまして企画しまして、放映時間は限られていますから出演者は5名だったんですけれども、アーティストの方々に出演していただいて、リモート市民祭ということで、いろいろなパフォーマンスを見せていただきました。もちろん、子どももいますから、なりわいではない方々もいらっしゃいますし、なりわいとしている方もいらっしゃいますが、このコロナ禍においてもそういった芸術文化の芽をしっかりと残していくといいましょうか、大切にしていきたいと思います。こういった取組も私は必要だと思っておりますので、そのように答弁させていただきます。続きまして、小金井市にも温泉を掘るべきだという話でございました。現状、市にはそういう計画はありません。自治体で、温泉を経営している自治体はあります。例えば日の出町などは、確かに「つるつる温泉」を経営していますね。小金井市で、現状、私、市長といたしましては、温泉を掘るといことは考えておりませんが、民間事業者の方がそういった事業に乗り出していただければ、そういったことを歓迎される市民の方も

いらっしゃるのかなということはありません。また、市民の方からも、小金井にも、掘れば温泉が見つかって、そういう場所ができたらいいですねという声を聞くことは時折ございます。続きまして、塀の状況です。これは非常に重要です。大阪北部地震で、不幸にも小学校6年生の女子児童が、残念ながら尊い命を犠牲にしまいました。本当に残念な、悲しい事故でございました。小金井市でも、まずは公共施設の全てのブロック塀を検査いたしまして、たしか9か所、建築基準法上問題のあるブロック塀が発覚し、緊急修繕をしました。今はほぼ全て、文書倉庫だけまだ調整中なのですが、残り、保育園、小学校のブロック塀は速やかに撤去し、新しい塀を建てました。今般の小金井市の予算の概要の16ページ、一番下。「ブロック塀等撤去助成金」という新しい制度を立ち上げました。まずは、建築基準法上問題のあるブロック塀、つまり災害や地震が発生したときに倒壊のおそれのあるブロック塀につきましては、民間所有者の方におかれましても、ぜひ安全性の高いものにしていただきたいと考えておりますが、個人の財産でもあります。そういったものを促進するための助成金です。そして、一方、昔から小金井市は、塀を生け垣に変えた場合には、生け垣助成というのがあります。こういった制度も使えます。こういった制度を大いに、民間の皆様方には、私どもも一生懸命PRしておりますので、活用していただきまして、安全性の高いもの、あるいは安全であり、かつ緑の創出にもつながる生け垣などに変えていただけたらありがたいなということで、一生懸命進めてまいりたいと思います。周知を一生懸命するということが、PRをしっかりするということが大切だと思っております。横断歩道などの、いわゆる交通ラインといいたいでしょうか、これが滑りやすいということについては、前回の第3回、この間の日曜日の市民と市長の座談会でも〇〇さんからは同様の御意見をいただきましたので、私のほうから担当に話しまして、小金井警察署のほうには、市民からそういう要望があるので、ぜひ滑りにくいものを考えてみていただけないかということはお話しできるように検討してみたいと思いますので、そのように答弁させていただきます。以上です。

○市民 I

それじゃ、結局、警察の管轄なんですね。

○西岡市長

これは、市も都も警察も、それぞれが担っている事業だと私は理解しております。例え

ば都道などについては、東京都施工で設置しているものと理解してございます。以上です。

○司会者

続いては、フリートークで御質問のある方はいらっしゃいますか。

○市民K

はい。

○司会者

前から2番目の女性の方。

○市民K

先ほど、コロナではないかなと思ってフリートークを待っていたんですけども、学校のGIGAスクール、もともとICTを進めていくという中で、大熊教育長も、もっと自由にものを考えられるような子どもたちを育てたい、そのためにICTを活用しようと言っていた。ところが、コロナによって、なぜか「教育を止めるな。平等、公平」と、恵まれた子と恵まれない子の平等・公平への思いにかき消されて、それが上で今、再びGIGAスクールを推進していますとなっているわけですけども、これだけ子どもの教育というものが激変期を迎えているわけですね。このときに、子どもを小学校に預ける親として、もっと学校の教育方針、学校の教育方法に関わっていく方法はないものかと、ちょっと思っています。私はこの間、PTAの本部役員等の募集があったので、「校長先生と相談しながら、私たちも協力するから、こんなふうに教育を一緒につくっていきましょうということができればやってみたいな」と、PTA経験者の人に言ってみたら、「規約を読みな。校長に意見するっていうのは、そもそもPTAの役割じゃないんだよ」と言われて、じゃ、保護者は、子どもを預けたら預けっ放しなのかなというところで。今、緑小かどこかでしたっけ。保護者と地域の方々で、お試しで取組がというんですけども、それを待っているうちにうちの子は卒業しちゃうので。何となく教育のことを、ちゃんと勉強してないんですけどばらばらと見ていたら、文科省のほうも「もっといろいろ、どんどんやれやれ」とハッパをかけていて、大熊教育長も「どんどんやれやれ」とハッパをかけていて。現場の校長先生とかのほうで、「いや、そんなこと言われても、クレーム受けるのは俺たち

だし」と言って、割と旧態依然としたものを、というか、もしくは学校の成績、今までどおり一律の基準で、みんなで同じ速度で勉強ができていくかということを重要視しているというところなのかなと思って。ということは、大熊教育長がいろいろハッパをかけても強制力は持たないんだなという感想を持ったんですね。だから、そこは市の教育方針として、こうするというシステムを市としてつくっていただかないと無理なのかなという思いに至ったんですけれども、それが1点。もう1つは、環境問題について私は関心があるのですけれども、市の中で、環境問題、例えば二酸化炭素削減、地球温暖化対策とか、今、ぱぱっとしか読んでいないんですけれども、市政方針とかでも、市の車のEV化とかを進めているとか何とかあったんですが、市役所そのものがそういうことに取り組むことももちろんすごく大事なんですけれども、市全体の対策というものをもっと大胆に進めていかなければいけないんじゃないかなと思うんですね。そういうところの取組というのは、まず、いろいろと補助金やります、補助金やりますと言っても、市民一般へのアピール度は低いし、そもそも市民がその補助金を使って何かしようと自発的に思うような仕組みもそんなに感じられないし、そういうところの取組って何かないのかなというのを一つ思っています。あと、これは物すごく個人的なことなんですけれども、私は工作とかが個人的に好きなんですけれども、ごみの話ですね。市のほうで、例えば公共施設の剪定木とか、何曜日かになると、ごみの収集とかでも剪定木とかは無料で収集するとかあったと思うんですが、そういうのを、例えば何日かどこかにプールしておいて、御自由にお持ちくださいという場所ってないのかなと思って。もしそれで、環境意識も兼ねてというのはありますけれども、例えば市内の剪定木でできたお皿でケーキ、コミュニティーカフェとかで、「市内の木で作ったお皿です」とか、公園のベンチに、「市内の放置林から切り出した木で作ったベンチです」とか、そういうのがあったらすごくカッコいいんじゃないかなと思って。そういう取組があれば、環境意識みたいな、まちに緑があるっていいなという意識も上がるんじゃないかなと思ったんですけれども。以上です。

○市民L

すみません。私、今の方の意見に対して少し意見があるので。

○西岡市長

ちょっと待って。まずは御答弁しなければいけないので。

○市民L

そうですね。

○西岡市長

まず一度、最初、私のほうから答えさせていただいて、その後お願いします。非常に大切な視点をいただきました。まず、教育における地域や保護者の方々の関わり方というふうに捉えております。今、私、市長に就任してから、コミュニティ・スクールの実現に向けて鋭意取り組んでまいりました。教育そのものは教育委員会が行うものでありまして、私、市長としては一定の、教育とは非常に尊い、大切なものでございますので、不当な介入といいましょうか、市長としての立場というのをしっかり踏まえて発言をしてきましたし、仕事はしてきました。一方で、教育総合会議といいまして、これは国の法改正によりまして、教育委員会と市長と、定期的に意見交換する会議も設けております。そして、授業の在り方ですとか、一義的には学校の先生たちが取り組む教育というのは、教育委員会においてしっかり尊重されて実施していくものだと思っております。一方で、学校の運営、在り方については、地域や保護者の方々と、地域立の学校というのを私は目指していく必要もあると思っております。緑小学校をモデル校として様々な取組を行ってまいりましたし、感謝をしております。これは小金井市が、恐らくは大号令をかけてすぐに実現できるものでもないと思っております。学校関係者、保護者、地域の方々が、学校の運営の在り方についてお互いに理解を深めて、協力・補完し合いながら実施していくべきものと考えております。号令をかけるということも、もちろんスピード感というものも大事かもしれませんが、相互理解が何よりも大事だと思っております。そういった意味で、このままでは自分の子どもが卒業してしまうかもしれないというお話もいただきましたが、すみません、まずは緑小学校のモデル校からスタートさせていただきたいなと思っております。

ただ、一方で今、保護者の方々の関わり方も、歴史と共にいろいろな変成をたどってきていると思います。小金井においては、PTAの方も大変御熱心ですし、最近ではおやじの会の方々も御熱心ですし、学校の中に避難所運営協議会をつくって、避難所の設営に御尽力いただいている保護者の方々もいらっしゃいます。また、放課後子ども教室ということで、いろいろな専門的な経験を持った方が、子どもたちに放課後、居場所の一つとして提供される中で、様々な経験を持った方が子どもたちへいろいろなことを教えてくださっ

ています。そういったものもあります。今の居場所で申し上げますと、大きな課題なんですけれども、学童保育も大変大規模化しております、私は学童保育、放課後子ども教室、また民間事業者も含めて、多様な選択肢があっただけいいと思っています。その選択肢の中に、保護者の方々も何らかの形で関わっていただけるということはとてもありがたいことだなと思っておりますので、コミュニティ・スクールという視点からはとても大切な御指摘だというふうに受け止めました。環境問題です。現在、小金井市では、今後10年間、令和3年度から向こう10年間に及ぶ基本構想というものを策定しております。前回お越しいただいたときに、たしか御指摘いただいたと思います。それに関連する計画を今、たくさん大改定しております、3本計画があります。環境基本計画、みどりの基本計画、地球温暖化対策地域推進計画、この3本の計画をつくっております、これまでワークショップや、いろいろな取組をしております。この3つの計画が、御指摘の環境の総合的な対策になります。この中には数値目標であったり、目指すべき施策の体系であったり、基本構想につながる具体的な計画として今、練り上げているところでございます。今後、パブリックコメントをかけたり、意見交換会を行ったり、何らかの形で関われる機会がこれからもありますので、ぜひ環境政策課のほうに、もしお時間があれば伺っていただいて、進捗状況などについて、よかったら聞いてみてください。その中で、御指摘の環境政策については、しっかり取り組んでいきたいと思っています。私も、小金井のポテンシャルといましようか、誇り、市民の方々の財産は、一つには緑だと思います。多くの方々が、小金井の魅力は何ですかとの問いには、大方がこのすばらしい自然環境とお答えになります。このすばらしい自然環境を将来世代に継承していくのは、とても大切なことだと思います。しかし、農地の減少でありますとか、国の法律の関係によって、残念ながら減少してしまうような緑もあります。しかし、農地も今、国の法律の、また別な改正がありまして、都市農地は宅地化されるべきものからあるべきものというふうに変換しましたので、今は賃貸借もできるようになりましたし、NPOの方々がそういった土地を借りて農地を応援するようなことも、今小金井市ではスタートしています。第6次産業にもつながるようなことも踏まえつつ、都市農業の発展というものも大切にしていきたいし、子どもたちの食育というものにもつなげてまいりたいと思っています。そして3点目の、取りあえず剪定枝。これは今、お出しいただければ市は無償で回収し、そしてそれを資源化の役に立てております。これを、もっと自由に使えるような仕組みができませんかという御提案は、御提案としてしっかり受け止めさせていただきたいと思っています。一方、台風な

どで倒木してしまった大量の枝とか、御要望があれば、市の保有する公共施設から出る未使用となる——未使用というか、使えなくなってしまった材木や倒木などについては、御利用・御活用いただいた事例もございます。自由にというわけではないんですけども、これから小金井市のほうで街路樹の老朽化、例えば桜も今、相当老木化してしまっておりますよね、学区、学校。そういったものを踏まえて、有効活用というものが確かに、おっしゃるようにできれば、そこからベンチが誕生したり、とても魅力的だなと私は思いますので、ぜひ検討はさせていただきたいと思います。以上です。

○市民K

再質問、いいですか。

○西岡市長

どうぞ。

○市民K

今の環境基本計画のほうで、「これからまたパブリックコメントとか何かで機会が」とおっしゃんですけども、この間、ワークショップが開催されて、まず小学生向けのワークショップというのにうちの子が行ったんですね。でも、そこには、そのワークショップというふうには書いていなくて、「小金井の環境リーダーになろう」みたいな、そんな感じのチラシを見て、うちの娘は、「やったー、リーダーになるんだ」と思って張り切って行って、最後に環境リーダー認定書とかいうのをもらってきて、「もらえたー」、「そう。それで、リーダーって何するの?」、「分かんない」って。リーダーの仕事が何もないんですね。また後に、ワークショップというのが、それは大人向けのワークショップだったので、私も気になって参加してみたら、そのとき初めて、その小学生向けの「子どもの意見を」というワークショップだったということを知って、ああ、そりゃリーダーに仕事がないわけだと思ったわけなんですけれども。何というのか、がっかりしたうちの子の気持ちはどうなるというのもあるんですけども、せっかく「リーダーになろう」と言ったんだったら、そういう気持ちのある人たちを、子どもでも大人でもいいですけども、もっと活用していく取組というのをつukれないのかなと思ったりもしたんですね。私が参加したワークショップのほうも、市としてこんなことができるんじゃないか、こんな仕組みをつくれ

るんじゃないかと私なりにいろいろ考えていて、最後に「ところで今日の意見って、どれぐらい反映される可能性があるんでしょうね」と聞いたら、「今日のは、市民個人が生活の中で取り組めるものは何かという材料をもらうためのものだったので、おおむねテーマとは違うと思いますね」みたいな感じのことを言われて。関われる機会がある気がして行っても、一体どれだけ声が届くんだろうというのは、すごく疑問だったんです。

○西岡市長

ありがとうございます。貴重な御意見として拝聴させていただきました。7時55分には私、終了させていただいて、謝辞を申し上げて、今日は8時に公務があるものですから戻らなければいけないので、あとお一人挙げていて、それからお二人、あと〇〇さんも挙げていて。

○西岡市長

あと、今3名挙げていらっしゃるんですね。時間がないので、今3名の方、お一人1分ずつぐらいでお話しただかないとお答えもできないので、ちょっと御配慮いただきたいと思いますけれども、よろしく願います。申し訳ございません。

○司会者

手前の男性の方から。

○市民M

庁舎計画について。市長にといいますか、こちらにいる方に少しお話をさせていただきたいと思います。手短に言いますね。今年2月に、新しい庁舎の基本設計がまとまったということで、説明会がありました。結果、市民からは150名を超える方が意見を提示されました。市民の要望ですね。現在それらを反映する——市民からの要望を反映したものは行われていないと私は見えています。私も3月5日、最終の締切りのときに、言葉だけではなく図面もつけて、担当部局のトップの方に説明に行きました。そのときに、目からうろこという言葉がございました。つまり、こうすればできるんだという。

○市民N

すみません。今、何の話をされているんですか。

○市民M

新しい庁舎の計画の件でございます。今年2月に市のほうから皆さんに、市民説明会があったんですね。そのときの説明会の話をしております。すぐに私、市長にお手紙を書きました。それで、連絡がなかったのも、私の記憶では4回、覚えているのですが、お電話をしたのですが、結果、面会があったのは10月27日ということで、9か月にわたって連絡がなかったんですね。ことわりというか、会えない理由は何だったのかを知りたいと思います。

○西岡市長

9か月じゃないですよ。10月にお会いしたじゃないですか。

○市民M

3月には手紙を書きましたので。

○西岡市長

正確におっしゃってくださいか。正確にものを。

○市民M

3月5日に伺いました。ですので、4、5、6、7、8、9、10。7か月ですね。

○西岡市長

全然違うじゃないですか。

○市民M

失礼しました。ただ、半年以上も市長が、いわゆる最重要課題として熟慮に熟慮を重ねと、一つ一つ積み上げというお言葉をよく発せられるのですが、市民力市民力ともおっしゃられますよね。その市民から出た提案が、担当部局、市長の部下たちがみんな驚いたという案がなぜ半年以上放置されているのか、その点をお伺いしたいと思います。

○西岡市長

はい。もう一人も取ってください。もう一人、連続で。

○市民O

小金井でも、農業をやりたい人が非常に多いんですよね。それで、小金井公園と五日市街道の間の細い土地、あれ、何か、僕が聞いたところによると、小金井公園から借りている土地が半分ぐらいあるらしいんですね。それで、そこで農作物を作って、市場へ出して金もうけをやっていると。だったら、小金井で農業をやりたいという人に、2坪でも3坪でも、少しずつでも貸して、農業をやりたいという意欲を満たしてあげればいいんじゃないかと私は思うんですよね。

○西岡市長

あともう一方。最後の方。

○市民P

すみません。私、本当はこの話を一番したくて来たので、話さないと帰れないんですけど、今日、議会を拝見しまして、令和3年から7年までの財政計画というのを私も資料で拝見したんですけども、かなり厳しい状況だと思うのですが、この中に庁舎と福祉会館建設に伴う跡地活用事業というのは多分含まれていないと思うんですよね。それを活用していくことで財政はむしろ好転できるんじゃないかと、私は考えております。今日、議会を拝見していて、財政計画の見通しがかなり厳しいので、市民生活を圧迫していくんじゃないかみたいな話もあったと思うんですけど、それは本末転倒で、要は庁舎建設を立ち止まっていたら、むしろじわじわとお金がなくなっていくだけだと思うんですよね。だから、まず庁舎建設は必ず成し遂げるということを決めた上で、じゃ、どうやって歳入を増やしていくかということをもう手がけていく時期なんじゃないかなと私は思っているんですよ。だから、市長の、選挙直前に出したチラシのところに、「市民参加で跡地活用をやっていこう」というところがあったと思うんですけど、それを少しずつ進めていっていただけないかなと。そういう意見です。

○西岡市長

すみません。時間の関係で、8時には出なければいけないものですから、なるべく多くの方の御意見をいただきたいということで、3人まとめてお聞かせいただきました。まず、お一人目の方の御質問です。パブリックコメントは、150名の方からいただきました。大変感謝をしております。そして、今般いただいた御意見の中で反映できるものは、例えば広場とかでありますとか、私どもとしては現状の実施設の中で最大限、そういった声が生かされるように今検討しているところでございます。しかしながら、4つの基本条件というものを構築し、それは市議会の皆様方や、途中、市民説明会やワークショップ、様々な場を通じて積み上げてきた結果として、C3案というものをつくりました。その基本条件、福祉会館の先行開業でありますとか、様々な、清掃関連施設は移設しないでありますとか、その4つの条件というのは非常に重たいものでございまして、この4つ条件を基に基本設計を終え、そして実施設計に今入っているところであります。私といたしましては、いろいろな御意見をいただきました。庁舎や福祉会館、複合施設、小金井市が初めて取り組む大事業でありますけれども、もともと建設計画調査をやったときから建て方には様々な手法がございました。そして、いろいろな議論を積み重ねてきた結果、私としては、決断をしながら進めてきたものであります。仮に、この基本設計の、私どもが構築した4つの条件というものを壊して、一度それを白紙にして設計をし直すということになりますと、建設計画調査からのやり直しになります。今の受託者の方は、この4つの条件を基に、プロポーザルで様々な検証を重ね、そして公正な選考委員会を経て、私たちは選定をさせていただきました。これまでに、建設計画調査、コンストラクション・マネジャー、基本設計、実施設計、全て含めると総額で4億円以上の税金を投入し、この大事業の実現に向けて全力を挙げて取り組んでまいりました。市長としての責任は、貴重な税金を活用させていただきましたが、これをしっかり実現につなげていくこと、これが私の使命だと思っております。したがって、いろいろな御意見があることは十分承知をしております。市議会の方からも様々な御意見がありました。しかしながら、市長としてはそういったものを紡いで実現していく責任がありますので、私としてはこの4つの基本条件を満たせない設計案を進めていくということにはならないということで、答弁をさせていただきます。お一人目の方には前回の、日曜日の市民と市長の座談会にも御出席をいただきまして、様々な御質問をいただき、同じ答弁をさせていただいたところでございまして、御理解をいただきたいと思っております。それから。

○市民M

総額で60億も変わるんですよ。

○西岡市長

今、発言中でございますので。それから、お2人目、農業ですね。農業につきましては、私は小金井公園が土地を貸して農業を営んでいるという事例を、すみません、承知していないので、そういった事例があるのかどうなのか分かりません。

○市民O

農家の御主人が言っていたんですよ。この土地は小金井公園から借りているんですよ。

○西岡市長

そうですか。私はそういった事例があることを承知しておりませんでしたので、御提案としては、そういうことを推進して、もっと農業を活性化したらいいんじゃないかという御提案ですよ。小金井公園は、御承知のように東京都の公園、都立公園でありますから、残念ながら市の判断でできるということではありません。また、実際にそういうふうに行っていたということでもありますけれども、私としては、小金井公園が土地を貸して農業をやっているという例は把握しておりませんでしたので、その辺があるのかどうなのかをまず調べなければいけないなと思った次第でございます。続きまして、跡地の活用でございます。非常に重要な視点でありまして、今回の新庁舎並びに（仮称）新福祉会館建設につきましては、かなりの現有公共施設を庁舎建設予定地に集約します。本庁舎、そして本町暫定庁舎、第2庁舎、貫井北町にある文書倉庫、それから旧福祉会館に入っていた大半の機能、今は分散した暫定状態です。これは、相当な集約になります。あそこで働く総従業員数も相当な規模になろうかと思っておりますので、小金井市内では、1つの建物の中で働く従業員数としては恐らく最大規模になるのではないかなと想定してございます。その結果、未利用となる公共施設が発生してまいります。例えば、保健センターもそうですね。先ほど申し上げました保健センターの中に入っている機能も、その全てが庁舎建設予定地に移行してまいります。その結果、未利用となる公共施設や土地が発生しますので、この有効活用はとても重要です。私も市のまちづくりや、そして付加価値として財政にも寄与で

きる方策というのは大事な視座だと思っております。今、実施設計に全力を挙げながらも、清掃関連施設の再整備、学校の長寿命化、これから公共施設をめぐってたくさんの課題に向き合っていくこととなります。その中でも、跡地利用というのは非常に重要な視点でございます。どのような有効活用をするかについては、本当に様々な選択肢がありますが、基本としては、庁舎・福社会館に集約する結果生まれた跡地については、一定規模の大事業にもなりますので、そこにまた改めて別な公共施設というよりも、公共施設等管理総合計画という基本方針の中には、総量抑制という視点もあるんですね。なので、公共施設等管理総合計画の視点も加味しながら、何が小金井市にとって、跡地利用の方策として一番いいのか、これを今後しっかり検討してまいりたいし、市民の御意見も聞きながら進めてまいりたいと、このように答弁させていただきます。大変恐縮です。時間の都合で、このような時間で、私も時間が過ぎてしまっております。最初にお話をさせていただいた方については、来週早々お目にかかるお約束もいただいておりますので、その中でまたしっかりお話を聞かせいただければと願っているところでございます。時間が過ぎてしまいましたので、謝辞も含めて申し上げたいと思っておりますが、今年度最後の市民と市長の座談会を開催させていただきまして、最後まで御参加をいただきまして、皆様本当にありがとうございました。現状、本日、新型コロナウイルス感染対策につきましては、東京都の感染レベルが最上位のレベルに引き上がったところでありまして、どうぞくれぐれも感染しない・感染させないという新しい生活様式を取り入れながら、日々の取組に御尽力いただきたいと思っておりますし、健康、そして寒い季節ですから火の用心にどうかくれぐれも気をつけていただきまして、お過ごしいただきたいと思っております。本日は、大変お忙しい中お越しいただきまして、誠にありがとうございました。

○司会者

それでは、以上をもちまして、令和2年度第4回市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。